

令和5年度勝田一中学区市政懇談会

日時：令和5年7月8日（土） 10：00～11：30

場所：一中地区コミュニティセンター

【事前質問】	3
1 大成町自治会 市有施設や公的機関におけるマスク着用について	3
（人事課回答）	3
【懇談内容】	3
1 自治会 市政30周年事業について	3
（企画部長回答）	3
（市長補足）	3
2 青葉石川自治会 歩道・点字ブロックの整備計画について	4
（建設部長回答）	4
（都市整備部長回答）	4
3 住みよくする会 中丸川の水質について	4
（経済環境部長回答）	4
4 三反田自治会 三反田小学校の樹木伐採について	4
（教育部長回答）	5
5 一般参加者 学生エール便について	5
（企画部長回答）	5
6 一般参加者 企業誘致について	5
（市長回答）	6
7 笹野自治会 ごみ集積所のカラス対策について	7
（経済環境部長回答）	7
（市長補足）	7
8 中根自治会 自治会未加入者のごみ集積所の利用について	7
（経済環境部長回答）	8
（市長補足）	8
9 長松自治会 小学校での除草剤の使用について	8
（教育部長回答）	8
10 三反田自治会 狭小坂道のすれ違いについて	9
（市民生活部長回答）	9
11 青葉・石川自治会 学校でのマスク着用について	9
（教育長回答）	9

12	住みよくなる会 中丸川での魚の稚魚の放流について	10
	(経済観部長回答)	10
13	中根自治会 市政 30 周年事業について	10
	(企画部長回答)	10
	(市長補足)	11
14	三反田自治会 東海第二原発再稼働について	11
	(市長回答)	11
15	一般参加者 市の人口動態について	12
	(企画部長回答)	12
	(市長補足)	13

【事前質問】

1 大成町自治会 市有施設や公的機関におけるマスク着用について

コロナが5類となり、マスクの着用が個人の判断とされたが、市役所等市有施設や公的機関も同様か。

（人事課回答）

新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク着用に関しましては、厚生労働省が、令和5年3月13日から個人の判断が基本になる旨を通知しております。

これに基づき市としましても、市民の方が市有施設にお越しの際には、マスクの着用は、個人の判断にお任せしているところです。

また、5月8日から感染症法上の位置付けが「5類感染症」に変更されたことに伴い、市職員のマスクの着用につきましても、個人の判断を基本としました。ただし、新型コロナウイルス感染症の流行が収束したわけではないことから、基礎疾患を有する方などに対しましては、引き続き配慮が必要であると考えております。

公的機関についてですが、市以外の機関では、重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、マスクの着用が推奨されている場合もありますので、それぞれにご確認いただければと思います。

【懇談内容】

1 自治会 市政30周年事業について

ひたちなか市政開始翌年に、「素敵な明日のために」が制作され、市民に市の歌として定着している。市政30周年を迎えるにあたり、新しい市の歌を制作してはどうか。

（企画部長回答）

市政30周年に向けて、いろいろなアイデアを出して検討をしていこうと、計画をスタートしたところです。市役所だけでなく、市民の皆様とも一緒に考えて、その中で、新しいものを一緒につくれないかといったことも検討したいと考えています。ただ、新たな市の歌の制作については、今の歌が広く市民の方に根付いていることも踏まえ、現在予定には無い状況です。

（市長補足）

記念事業については、幅広く考えたい。できれば1年間記念事業がずっと繋がっているようなこともできないかなとは思っています。「素敵な明日のために」は、市のひとつの資産になっており、大事にしていければ。いずれにしても、色んなアイデアをいただきなが

ら進めていきたいので、ご協力いただくようお願いいたします。

2 青葉石川自治会 歩道・点字ブロックの整備計画について

地区内マンションの子育て世代の方から歩道の整備をしてほしいという要望がある。スパーク青葉前の歩道は状況が特に悪い。今後の整備計画などがあれば教えて欲しい。

(建設部長回答)

順次、補修は行っているが、追いついていない部分もあります。状況確認の上、補修に努めてまいります。

(都市整備部長回答)

中心市街地における歩道の整備については、平成19年度から2期10年にわたって総合病院を核に整備を行ってきたが、ご発言いただいたようにスパーク青葉前、総合病院の南西角あたりの劣化が著しいことは把握しています。

その一方、令和6年度以降、中心市街地として、人の流れやにぎわいの創出など、プールの跡地利活用、中央図書館の建設候補地であることなども踏まえ、周辺環境と調和するような歩道空間整備なども前向きに検討していきたい。数年後には、何らかの形で手を入れるということも踏まえ、現状は、いわゆる本整備ではなく、適切な維持補修を行うということでご理解いただくようお願いいたします。

3 住みよくする会 中丸川の水質について

中丸川の水質は魚が住める状況であるか。

(経済環境部長回答)

市では、定期的に市内の河川の水質調査を行っています。環境基準が設定されており、中丸川に関しましては、環境基準を満たしており魚や生き物が住める状態です。

(市長補足)

補足だが、市内では早戸川の一部が基準をオーバーしてるということを長年研究をしてきました。そういった中で、今回、早戸川的那珂川への流入部上流の河川改修が全部完了したところ。これにより、大分水が流れるようになったので、もしかしたら改善してる可能性はあるかなと、今調査をしているところです。

認識としては、ひたちなか市内で基準をオーバーしてるのは、残念ながら早戸川だけあり、これも少し改善されるかなというような状況になっています。

4 三反田自治会 三反田小学校の樹木伐採について

小学校体育館の雨どいから、樹木が生えてしまっている。学校にも話をしたが、教育委員会でなかなか切ってもらえないとのことであった。近隣住民から自治会にもこの話が寄せられている。管理・清掃をお願いしたい。

(教育部長回答)

立ち木の状況については、把握しています。市内学校の修繕、環境整備については、計画的に予算措置をして進めているところだが、今の話については、持ち帰って協議の上進めたいと思います。

5 一般参加者 学生エール便について

学生エール便について、沖縄に出ている娘が、お米がおいしいと感動して食べたとのことだった。今後も続けて欲しいと思う。

(企画部長回答)

そういった声をいただくのは励みになります。今後も一生懸命やっていきたい。

(市長補足)

学生エール便は、コロナ禍で、なかなかこちらに帰省ができないといった学生に何らかの手助けできないか、また、ひたちなか市のことを忘れないで、何らかの形で関わり続けてもらいたいという想いで送らせていただいています。

毎年1000人ぐらいの方々には送らせていただいているが、送っただけではなくて、これから定期的に情報が欲しいと言ってもらえる学生がほとんどで、毎年、そういった若い子たちとひたちなか市が直接繋がるという接点づくりにもなっている。そこから派生した地域活動やプロジェクトもあると思います。

なかなか18から22歳ぐらいの方たちと直接、繋がれる機会は今までなかったが、貴重な、交流ということで、充実をさせていきたいな思っています。

それと、沖縄にいらっしゃるという話で、石垣島とひたちなか市の市民交流がずっと続いており今年で20年を迎えるということで、記念行事を今秋に予定しているところ。そういった交流についても知っていただきたいと思います。

6 一般参加者 企業誘致について

市長のプレゼンの中で大変前向きにいろんな施策をされているということ知れて良かった。ぜひ進めていただきたい。その中の企業誘致について、初めは、雇用が増えて、税収が増えて、間違いなくプラスに繋がるとは思うが、一方で、企業が景気の良い時はいいが、ある意味城下町になってしまうと、企業が傾いてしまうと、自治体もより悪くなるということが、他の地域でよくあることだと思っている。

そこで市長への質問だが、今具体的にどうということではないが、これから次期総合計

画を策定する中で議論していくものだと思うが、企業誘致の負の影響も踏まえた取組が市長の頭の中にあるものがあれば、教えていただきたい。

(市長回答)

企業誘致については、なるだけ、雇用が確保できて、この地域にいる親和性が高い企業さんに来ていただきたいです。市には、国有地だけじゃなくて港湾がありますので、常陸那珂港をいかに使って、相乗効果が出せるのかという視点も必要なのかなというふうに思っています。

あと地場の企業さんも非常に今元気で、拡張したいというお話をたくさんいただいております。外から来るだけではなくて、地元の企業さんの拡張や、新たなビジネスに繋がるようなマッチングなども必要なのかなと考えています。

もう一つは、雇用が確保されることは、地域にとっては嬉しいのですが、企業さんからは、本当に雇用が確保できる地域なのかということのを常に聞かれます。

というのは人口減少の問題です。私 1973 年生まれですが、1 年間で 210 万人生まれた年です。一番多かったのは、昭和 26 年で 260 万人。片や去年は 78 万人ということで、3 分の 1 になっています。こういった中で、ひたちなか市だけではなくて、もう少し広域に人が集められるような力がある地域なのかどうかということ、企業さんが見ているという側面もあります。もう一方で、外国人研修生、国の方でいろんな議論がありますけれども、やっぱり考えていかなければいけないと思っています。

その中で、企業がいい時はいいけど、違うときはどうなのかということは、普遍的にあると思います。

先日、名寄市のお話を聞きました。北海道の名寄市はですね王子製紙がある町で、王子製紙が当たり前にあるという状況の中で、あまり町と企業との関係は、今まであるんだから、これからもあるよねということで過ごしてきたら、突然撤退ということで、大変なことになったという話を、当の名寄市の方から聞きました。

ひたちなか市も多くの企業が立地しているということで一つは、一つの企業だけではなくて複数の企業に来ていただいて、リスクを減らしていくという方針、それともう一つは、国際企業が多く、ひたちなか市は立地しているので、地元だけではなくて私としては本社の社長としっかりと話をしていくということをやっております。

日立製作所、JX 金属、コマツや建機など。そういった中で、企業が目指しているベクトルと、全部じゃないですがひたちなか市が、課題となっているベクトルをなるべく合わせながら共有して、一緒に何かできることがないかっていうことを、しっかりと相談しながら進めることが大切なんじゃないかと思っています。

また生成 AI も含めて、デジタル化ということもある中で、市内にはそういった企業がたくさんあり、行政はまだまだデジタル化が遅れており、どういふふうに対応していくのかということも行政と企業のベクトルを合わせていく一つかと思っています。

それでも、企業が無くなっちゃうときはあるかもしれないが、できる限りそういうリスクを減らしながら情報を共有しながら、進んでいける環境を作っていこうと思っています。

このような考え方も含めて、ご指摘があったように令和8年から新たな総合計画を作っていこうと思っております。その中に、市民と協働、その市民の中には企業も含めて、一緒にこのまちにいる理由、価値みたいなものを認識できるような取り組みを進めていきたいと思っています。ちょっと漠然とした話ではありますが、そういう視野で、市政運営を私としてはしていきたいと思っています。

7 笹野自治会 ごみ集積所のカラス対策について

ごみ集積所が鳥獣に荒らされ、ごみが散乱している。自治体によっては、ダストボックスの供給を行っている。対策等検討しないのか。

(経済環境部長回答)

ごみの散乱の相談は、市に寄せられており、把握はしているところで、散乱防止用ネットの交付をもって対策をしています。ダストボックスの供給については、集積所の多くが土地の確保がされていないロードサイドであるため、一律に供給するのは難しいと考えています。集積所を使用する人で簡易ボックスを設置したり、ネットとブルーシートを組み合わせ使用したりと、工夫されている場所もありますので、情報共有をしながら対策していきたいと考えています。

(市長補足)

ごみの集積所は市内に、5000~6000か所ある。ダストボックスが置けるか置けないかは、場所によると思いますので、置けるとところにそういった補助ができるかは研究が必要かなと思います。

一方で、私もごみ出しをしているが、ブルーシートとネットを使って重石をすると、ほとんどやられていません。そうなってくると、ごみ出しのマナーの問題も出てくるのかなと思っています。そういった中で、一つの事例として、東石川小学校の子供たちが、カラスとごみの関係について研究をして、環境シンポジウムで、何回か発表してくれています。

カラスの特性とかを知った上で、良いごみの出し方を、子供のところから、共通の理解を進めてくれていると、それが親にも繋がっていくという一つの事例があったりします。

モラルの関係ということも含めて言うと環境教育も含めながら、広げていけるように、考えていきたいと思っています。さらなる補助に関しては、研究をさせてください。

8 中根自治会 自治会未加入者のごみ集積所の利用について

自治会あるいは、ごみ集積所の管理団体に入らず、ごみ集積所を利用される方について、市はどう指導しているのか。

(経済環境部長回答)

基本にごみ集積所というのは、その集積所を利用する方達に管理をお願いしておりますので、自治会の加入と直接的には結びつかないところがありますが、自治会員の方が管理されるケースが多いのは確かです。いずれにても市に相談があった際は、集積所の利用にあたっては、管理されている方に、相談してくださいというお話をさせていただいています。

それでも、どうしても使用が難しい場合には、なかなかこれも難しいのですが、近隣で、一定世帯数まとまったうえで、集積所の設置を新たに管理をしていっていただくというお願いをしているところです。

なかなか難しい問題ですが、基本的には利用者の方、管理されている方に相談するよう促しているところです。

(市長補足)

もう一つは、まずは自治会に入ってもらうように案内をして、地域でまず折り合いをつけていただくというように、促していくということですが、一方で、ごみ袋自体にごみを処分する費用が含まれているということで、市としては、ごみ袋を買っていただければ、それを処分する権利を買っていただいていることにもなるわけです。

それで、直接、クリーンセンターに持ち込んでくれるというような方々が実はいるのですが、これも多くなりすぎて、特にゴールデンウィークとか年末とか、国道 245 の方まで並んでしまい、これが問題になっているというところで、去年の秋ぐらいから、土日だけ、予約制にさせてもらって、時間に余裕ある方は平日に持ち込んでくださいということで、平準化してもらおうようにしています。

多分地域によって、ごみの出し方のルールは違っているというところもありますので、また別個に中根の方だというお話だったので、自治会の方の担当と合わせて、深掘りさせてもらえばと思います。

9 長松自治会 小学校での除草剤の使用について

小学校で除草剤を使う基準などはあるのか。公園管理にあたっては、推奨されていない。

(教育部長回答)

使用状況については、正確には把握はしていませんが、年に数回、委託契約の形で、業者をお願いをしている中では基本的には使用していないと思っています。

校務員が日常管理の中でということも考えられるが、少し確認をさせていただいて、使っているということであれば、どういう形であるのか、また安全性の問題ということでの話かと思しますので、基本的に安全な形で使用しなければなりませんので、確認をさせ

ていただきたいと思います。

10 三反田自治会 狭小坂道のすれ違いについて

すれ違いが難しい坂道があり、トラブルが頻発し、自治会もトラブルの仲裁をしたこともある。信号設置やカーブミラー、標識などの対策をして欲しい。

(市民生活部長回答)

信号の設置につきましては、規制ということになりますので、公安委員会の許可を得ないとつけられないということになります。

一方でカーブミラーは、要望をいただき、市で現地を確認して、設置にあたっては、地域の地権者のご協力をいただきながら、判断していくということになりますので、まず現地を確認させていただきたいと考えております。よろしくお願いたします。

11 青葉・石川自治会 学校でのマスク着用について

マスク着用による子供達のコミュニケーションへの影響が少なからずあると思う。勝田中等教育学校は県の所管なのかもしれないが、そのあたりの認識はどうか。学校では、マスクを外せと言っているのか、それとも実践に任せているのか、それともできるだけ外すように言っているのか、どのように指導をしているのか教育長からお願いしたい。

(教育長回答)

着用については、子供達の自主性に任せるということで、少しずつ外すようにしていますが、暑い時の運動や、屋外活動の際は、外すよう指導している。自ら外しているお子さんも多くなってきている。

先生も着用する人もしない人もいます。前回、新型インフルエンザの流行時も、中学生に関しては、全員がマスクを外すのに3年かかった経験があります。一斉に外せと言われても、なかなか外せない子もいます。それは、子供たちがいろいろな情報を持つ中で、考えていることだと思うが、少しずつ少しずつ外していくように先生たちは導いていっていると認識しております。

ですので、給食なども、もうグループで食べているところもあれば、まだ不安な子がいるからということで、前を向いて食べているところもありますし、クラスによっては、もう全員外しているところもあれば、そうでないところもあると。

ただ先ほどのご指摘の通り、感情につきましては、学校生活の多くの時間、顔全体がわからないで過ごすことによるコミュニケーション不足というのは、これから私たちはしっかりと取り組まなくてはいけない課題かなと思っております。

そういった面で、今学校は、体験活動を多くしましよとか、また、いろいろな地域の方や、専門の方などと接点を持って、様々な活動をしていこうということを取り組み始め

ています。

そういった面で、先ほど市政 30 周年という話もございましたが、小中学校でも何か記念の行事などができないかなど、子供達が考えていけるように進めていきたいと思っています。これからは、多様性、様々な世代、様々な人種、そういう人たちと一緒に生活するのが次の時代だと思いますので、様々な機会子供達のコミュニケーション能力を培っていきたいと考えております。

(市長補足)

補足になりますけども、勝田中等教育学校は所管が県になります。ただ、中学校と同じ学年 123 年生に関しては、様々な行事は市の中学校と一緒にやらせていただいていますので、全く分離ではなくてコミュニケーションをとらせてもらっている状況です。

12 住みよくする会 中丸川での魚の稚魚の放流について

中丸川での魚の稚魚の放流について、今後予定はあるのか。

(経済観部長回答)

環境基準については類型がございまして、上流側が最も低く、下流側に行けば行くほど数値的には、高い数字での設定にはなっております。

中丸川に設定されている基準は、一般的にフナなどの魚が住める状態の水質であります。水質検査につきましては、毎年市の方でも環境報告書というものを発行しまして、ホームページ上でも公表しております

(市長補足)

中丸川への鮭の稚魚の放流は、15 年ぐらいライオンズクラブさんと那珂川の漁協さんでやっていたのですが、令和元年か 2 年をもって、一旦事業を終了するという事になっております。

環境を考えるとということで、民間の団体さんなどの企画が今後あれば、また市で協力とすることができるのかなと思っていますが、ひたちなか市として独自の事業としてこれをやろうという計画は今のところはありません。

13 中根自治会 市政 30 周年事業について

せっかく立派な歌があるので、もっと市民への周知・定着を図ってみてはどうか。例えば、勝田駅の発着駅のメロディーなど。日立駅は「いつでも夢を」が流れる。

(企画部長回答)

ひたちなか祭りのダンスコンテストでお馴染みになっているため、定着しているものと

思っていたが、やはり、あまり聞いたことないという方もいらっしゃるなということを感じたところでございます。JRさんの方でのメロディーにするというご発案もいただきましたので、こういった形で、市民の方に愛着を持っていただくか、考えているところですので、一つのアイデアとして検討させていただければと思います。ありがとうございます。

(市長補足)

面白い指摘かもしれないですね。私、ひたちなか市になったのは21歳のときなので、このひたちなかの歌とダンスは帰ってくるまで知らなかったですが、私の娘は小学校6年生ですが、その友達たちはみんなあの知っているわけですよ。だからその踊りが踊れるひたちなか市で生まれた子供たちと、旧勝田市とか那珂湊の方々との、少しそういった文化の違いとか、あるかもしれないですが、面白いので、何かの時には調べてみるといいかと思います。

14 三反田自治会 東海第二原発再稼働について

東海村は、交付金もらっているが、ひたちなか市は何の恩恵もなく来ている。老朽化の問題もある。また、30キロ圏に92万人事故があった場合に、安心して避難できるかという問題もあるし、最近日本原電で火災事故なども起きている。

機械の不具合、人間のミスで万が一でもリスクはあり得る。あえて今後リスクのある原発を動かしていく必要があるか疑問を持っているが、市長の考えを伺いたい。

(市長回答)

まず基幹電源というエネルギーの話は、やはりまず国がしっかりと方針を決めていくべきだというのが基本的な私の考え方の中心にあります。

その中で、新安全協定というのを結ばせていただいて、東海第二原発に関しては立地、所在地域がこれまで県と東海村だけだったところ、基礎自治体としては6市村、その中の一つにひたちなか市も入って、新安全協定に基づいて、対応をしているというところがあります。

施設の安全性に関しては規制庁の方が審査をし、合格をしていますが、さらにそれに対して県の方でワーキングチームを作って、200以上の課題に対して一つ一つ検証しています。そこにひたちなか市もオブザーバーとして入っております。施設の安全に関しては規制庁としては一定の見解が出ていますが、それをもう1回市として洗い出しているところです。

それとあわせて、広域避難計画に関しては内閣府から作れというような形で方針を出されて、基礎自治体の方にその義務があるということで取り組んでいるところです。ひたちなか市は30キロ圏には入っていますし、5キロ圏にも、長砂地区が入ってきます。5キロ圏というのは、事象の起こっていく、段階で一番早く、避難をしていかなければい

けないというこういうような地域でありますので、ここの避難をどういうふうにしていくのかというところで、今年の3月に訓練を行わせていただいて、一つ一つ課題を抽出しているところです。

併せて、30キロ圏も含めてどうしていくのか。避難先をどう確保していくのか、いろんな課題に対して一つ一つ取り組んでいるというところです。なかなか、ひたちなか市単独でできることではなく、避難所の確保であったりとか、交通網の状況であったりとか、また移動手段の確保であったりは、やはり国とか県とかと一緒にやっていかなければいけないというような課題であります。いずれにいたしましても、まさに取組中というところでもありますので、途中経過も含めてですね、自治会の皆さんまたそれぞれの安全担当の皆さん方に情報を共有していきたいと、そういうふうに思っています。

あくまでも新安全協定に基づきながら、6市村で対応しているという状況をご理解いただきたいなと思っております。

15 一般参加者 市の人口動態について

ひたちなか市の人口は、増えてもないし減ってもないという状況。県内では、東海村県南のTX沿線ということだと思う。

東海村が増えているとか、ひたちなか市が現状維持しているというのは、県北県央の他地域から二世の方が、山から降りてくるみたいな移動をしている結果としてだと思う。大きなUIJターンが起きているわけではない。

一方で県南のTX沿線は、首都圏から住むという意味でも来ていますし、働くという意味でも、つくばの研究所に來たりして、大きな変化、イノベーション的なものも起きていると承知している。

人口自体は、どこを見ても、これから減るだろうということで、UIJターンって何の意味があるのだろうかと思ったときに、多様性、ダイバーシティ、こういう観点で新しい付加価値を作っていくってところが市の発展に繋がるのかもしれない。

市長がどんなふうに使われているのかコメントいただきたい。

(企画部長回答)

UIJターンに関連する取り組みとして、学生エール便や、ブリッジプロジェクトなど学生向けの事業を実施しています。また、移住体験ツアーや、SNSを活用した情報発信、魅力発信など10幾つかの事業を展開しています。それがすべての結果ということではございませんが、ひたちなか市の人口動態、なかなか増えていきますというところではないのですが、令和4年度を見ますと、転出と転入がプラスマイナスゼロに好転した状況が生まれております。

今の事業がすべてということではございませんが、いろんな事業に取り組んでいく中で、さらにそれらを融合して、今度は好きな人同士が集まるような、リアルな場所を作ろうな

ど、どんどん広がりを続けているところがございます。

ご指摘も踏まえまして、さらに、移住定住促進、或いはUIJターンということを練り上げていきたいなと思っています。

(市長補足)

近いところから、ひたちなか市に入ってきているということは、どこの町もそうだと思いますが、その中でも、ひたちなか市は、県央県北地域の中でより広域から人の流れを呼び込める市の一つではないかなと思っています。

場合によってひたちなか市に住んでもらうのが一番ですが、それが那珂市であったり東海であったり、水戸市であったりとしても、この県央地域全体が地盤沈下しないような、そんなリーダーシップをとれるような動き方をしていくのが、ひたちなか市の価値ではないかと思っております。

あわせて、移住定住だけではなくて、いわゆる関係人口、活動人口の観点で他の町に住んでいるけども、ひたちなか市で活動するよ、ひたちなか市でいろんなことをやっていくよ、都内に住んでいるけれども、毎週、ひたちなか市にきていろんなことをやっているよと、こういう動きも、これからすごく大切だろうと思っています。

若い子と話をしていたら、人口は減っていくのだから、人口もシェアすればいいんだよってというような意見を言っている方がいて、なるほどと思いました。1人の人が2拠点で活躍すれば、両方の町が活気づくでしょうという発想ですよ。

そういったことでいうと、都内に出ていったけれども、そして都内で就職をしているけど、何らかのことで、ひたちなか市に関わってくれるとかですね、その友達がお前の地域面白そうだから俺も一緒にやらせてくれよと関係ないけれども関わってくれる。

こういう動きをしっかりキャッチをして、それをとらえていく事業を幾つかやっているということで、今企画部長から、詳しくはなかなか説明できませんでしたがご説明したところです。

UIJ ターン先をひたちなか市に選んでもらうようにする。また、そうでなくてもひたちなか市で活動することが楽しいねと言っていただけるようなまちづくりを市民の皆さんと一緒に作っていく。こういったことを、今後も基本として、やっていきたいと思っています。